

第9次支援チーム・寺跡事務局長からの報告NO,2です！

○4月15日(金)20:52

今日で高野さん・柄折さんの支援終了です。2人はすごく頑張っていました。避難所訪問、地域訪問、外来支援にと大活躍でした。昨夜少し話を聞きました。「避難所では1ヶ月も経つのにいまだに食べ物が行き渡らない。おにぎり、パンのみ。18歳の女性1人と多く高齢者が一緒に暮らしている仕切りのない公民館や段ボール間仕切りの体育館。プライバシーが無い生活が長く続いているとのこと。行政や政治が早く住宅や食べ物、生活を人間らしい暮らしに戻せることが求められているのに全然進んでいません。」と言っていました。

○4月17日(日)17:27 **今回支援にきて感じたことを5つ記します！**

1. 実際の被害状況、そこで暮らす人々の苦悩、求めるもの（時間・状況とともに変化）は、現地に来て、よりリアルに、生々しく感じ取ることができました。特に、津波により壊滅的打撃を受けた若林区の訪問で、心の底から感じました。悲惨の一言です。まず現場を見て、分析・判断し、方針が必要です。
2. マスコミ報道だけでは救援活動の目が曇ります。若林地区では、避難所には食料や救援物資が届くものの、自宅が心配で家に戻った方（農家がおおいため家を大事にしている）の所には、何も届いていません。また、「避難所で炊き出しがある時でも何の連絡もなかった」と、憤慨されていました。狭間におかれた被災者にも目をむけることが重要です。
3. 坂総合病院がある塩釜市の避難所と隣の多賀城市的避難所では、食料・支援物資など較差があったそうです。民医連の事業所があつて、行政と連携がとれる避難所はよかったです。また、坂病院以外の事業所でも地域訪問を行い、住民の悩みや要望に応え非常に感謝されていました。同時にその背景には、これまでの地域に根付いた活動により、住民から信頼されていた事もあると感じました。富山でも、医療・介護事業の信頼、もっと地域に出て住民との絆を深める事が重要と思いました。
4. 行政や国の対応の遅さやお粗末さ。前回通信で送った避難所の状況。仮設住宅設置の遅れなど、問題点を挙げればきりがありません。住民の視線にたち、住民の要望・意見を聞いて、実際に現場を見て、きめ細かな対応、震災救援、生活再建、地域復興を行う。そういう行政や国の姿勢はあまり感じられませんでした。もっと声をあげ、国・行政を動かし、変えていく必要があります。
5. 民医連の連帯感や団結、パワーを肌で感じました。
全国から来て、知らない顔同士でも、朝夕「おはよう」「おつかれさま」の元気なあいさつが自然に交わされます。支援に行った内容や状況を語り合う。要請された支援内容について職種を問わず黙々と応え、明るい顔で活動し、地域・患者さんのところにでかける。すがすがしさを感じた7日間でもありました。「ボランティ」を希望して民医連ならすぐ支援に駆けつけるだろう」と、知人から紹介されて参加



された民医連外の医師・看護師の方が何人もいて、私たちと一緒に活動しました。私も東京からきた国立病院の看護師さんと地域訪問に行きましたが、「民医連だから、組織をあげてこんな支援活動ができるのですね」と話されていました。いざという時、地域住民のために全国からかけつける民医連の行動力。それを組織し、民医連以外の団体・個人とも連携・協力して支援活動を行う民医連のすごさを感じました。

(寺跡事務局長は4/17で宮城支援を終了します。4/18朝の東京行きバスに乗り、夜には富山へ帰着予定です。)

第10次支援チーム、元気に出発！

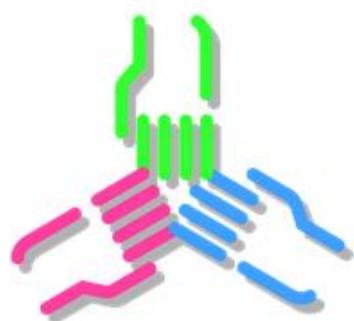
(きずなの)角由紀美さん・(病院リハの)長谷川俊一さんが、きずなやリハビリ科職員などに見送られ、昨日(4/18)13:30に富山駅北口から元気に出発しました。



左から長谷川さん・角さん



見送りの皆さんと記念撮影



皆さんから寄せられた募金の一部が「医療福祉生協連合会」を通じて、被災地に義援金として贈られます！詳しくは裏面を見てくださいね。

募金到達状況(4月15日現在) 295万円/目標300万